|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| **学校経営推進費　評価報告書（２年め）** | | | | |
| **１．事業計画の概要** | |  |  |  |
| **学校名** | 大阪府立花園高等学校 | | | |
| **取り組む課題** | 授業改善への支援（生徒の学力の充実） | | | |
| **評価指標** | 1. 学校教育自己診断における生徒の授業満足度の向上 2. 学校教育自己診断における生徒の主体的な探究的学習活動の意欲向上（主体態度の評価） 3. 外部機関の客観的学力診断テストにおける学力の向上（知識及び思考力・判断力・表現力の評価） 4. 希望進路実現率の向上（国公立大学及び難関私立大学進学者数の増加）  * 読書活動（年間読書冊数）の向上 | | | |
| **計画名** | 学びの劇的改革！「花園高校図書学習情報センター」の設置  ～「情報発信スタジオ」及び「校内教育資料横断検索システム」の整備～ | | | |
| **２．事業目標及び本年度の取組み** | |  |  |  |
| **学校経営計画の**  **中期的目標** | **１．学び続ける意欲と態度、確かな学力の育成**  （1）授業力向上の取組み  イ 「観点別学習状況の評価」を進め、生徒を中心に据えたビジョンを共有し、計画・実践（指導）・評価・改善（ＰＤＣＡ）を繰り返し、不断の授業改善に取り組む。  （2）学習到達度の把握と学力伸張の取組み  ア １年次から学力生活実態調査、模擬試験等を利用して学習到達度を把握し、教科・学年・分掌が協働して基礎学力定着と応用的学力伸長に取り組む。  （3）自学自習の習慣を確立する取組み  イ 小テスト・朝学・補習・講習・週末課題など、これまでの教育実践がより効果的な学習になるようにＩＣＴを取り入れ、学習動画配信やオンライン学習の開発・実践に取り組む。  ウ 読書活動によって教養を身につける経験をさせ、自主的な読書活動を支援する。※「生徒向け学校教育自己診断（以下生徒自己診断）」において、令和５年度までに「教え方に工夫をしている先生が多く、授業は分かりやすい」78％以上（Ｒ２：75％）、「授業・補習を通じて、進路に必要な学力を得ることができる」90％以上（Ｈ30：85％、Ｒ１：88％、Ｒ２：86％）、「宿題・予習・復習など、家庭学習の習慣がついている」60％以上（Ｈ30：49％、Ｒ１：42％、Ｒ２：56％）、また、令和５年度に読書を３年間で10冊以上の生徒80％を達成。  **２．将来を見据えた進路を切り拓く力の育成**  （２）探究的学習の推進  イ 「総合的な探究の時間」や「花園進路探究プログラム」等で自発的に学び探究する能力を引き出し、全生徒が探究活動を通じて成長した実感が持てるよう指導する。  ウ ＳＤＧｓに係る探究活動において、当事者に共感し、真に当事者意識を持って課題解決する能力を養い、未来を創造する力を育成する。  生徒自己診断において、令和５年度に「探究的な学習を積極的に取り組む」80％以上（Ｒ２：68％）、「自分の進路についてしっかりと考えている」80％以上（Ｈ30：77％、Ｒ１：77％、Ｒ２：75％）、また、第一志望大学への進学率70％以上を達成する。 | | | |
| **事業目標** | **薄暗く閉塞感の強い図書館を、光と風の通う明るく開放感のある空間にデザインし、以下の機能を持たせる。**  １ 「第４次大阪府子ども読書活動推進計画」に則り、本校が積極的に取り組んでいるSDGｓ探究活動や進路探究学習に読書活動を積極的に取り入れ、インターネットによる情報のみに頼らない、確かなエビデンスに基づく探究的学習を実践する。キャリアパスポート等に反映し、自らの進路を切り拓く力を育成する。  ２ 「情報発信スタジオ」を整備し、教員によるオンライン教材の開発に資するとともに、国内外複数地域との同時接続による交流、本校舎普通教室へのライブ配信などの機能を授業等で積極的に活用し、生徒の思考力・判断力・表現力及び主体態度を養う。同時に撮影した動画をアーカイブ化し学習教材として活用する。（グループ単位の高度なweb交流や発表準備の場としての活用を主とする。クラス単位でのweb交流はcall教室、学年単位でのweb交流は普通教室同時接続で実施し、使用用途の棲み分けを行う。）  ３ 「校内教育資料横断検索システム」を構築し、図書館や各教科準備室保管の書籍、探究発表や学校行事の映像や文書、各教科等の学習動画（授業、進学講習、人権学習、防災教育など）をアーカイブ化し、本校での日々の教育活動の全容を横断的に関連付けて、検索・閲覧できる「情報センター」をつくる。また、各資料には資料管理者や教員が付ける検索タグの他に、生徒が記述可能なタグ領域を用意し、資料の有機的な結合を促進する。  ４生徒にとって様々な情報が収集でき自学自習の学習環境を飛躍的に向上し、居心地の良い学びの空間を実現する。 | | | |
| **整備した**  **設備・物品** | * 図書館への情報発信スタジオの設置（超単焦点プロジェクタ・電子黒板・無線LAN） * 撮影・音響機材 * 動画編集用PC * 書架・書籍・ミーティング用椅子・照明工事・遮光カーテン | | | |
| **取組みの**  **主担・実施者** | 主担： 校長、教頭、情報化推進部、文化国際部、「総合的な探究の時間」検討委員会  実施者: 全教職員、各教科（国語、社会、数学、英語、保体、理科・芸術・家庭・情報） | | | |
| **本年度の**  **取組内容** | * 教科指導をはじめSDGs探究活動や進路探究学習等様々な教育活動に活用できるよう、教員から推薦図書を募り、また、中央図書館司書の指導のもと、近隣複数校の学校司書担当教員や大勢のPTA実行委員の協力も得て大幅な蔵書の入替えを行った。 * 書架を入れ替えて部屋を見渡せる配置に設置しテーブルや椅子も整えた。 * 生徒図書委員会による新着図書の案内や貸出業務を積極的に行い、図書の貸出冊数は昨年度87冊から今年度500冊へ大幅に増加するとともに、探究活動をはじめ授業で図書を活用したり紹介したりすることも増加した。 * ５月から「朝学」を再開して意欲的に学びに向かう態度を育成し、読書啓発キャンペーン期間を実施して読書への興味・関心を高める取組みを行った。 * 活用を促すため図書館紹介用動画を作成した。（URL:https://youtu.be/if4w7T\_7lzM） * 図書館への情報発信スタジオ設置に向け、既設書架の撤去、照明工事、アクセスポイント設置工事や必要な物品の整備を行った。   １.蔵書整備―生徒の利活用の促進に向けて  ・図書システムへの登録…全ての図書にバーコードを貼付、また、背表紙の請求番号シールを日本十進分類法に統一し、著者名をカタカナ（海外文学はファミリーネームで統一）表記し生徒が検索しやすくした。  ・選書・購入・配架…「花園高校図書館資料収集方針」に則り選書。生著や教職員のリクエストの中で府立高校内の蔵書数が少ないものや人気があり頻繁に貸し出す見込みがあるものを購入。「芥川賞」「直木賞」「本屋大賞」は必ず購入した。また、各教科の学習内容とのリンクを重視し、000～800番台と900番台（文学）の割合が概ね1：1になるよう幅広いジャンルから選書し購入した。購入した図書は、「新着コーナー」や「特別展示コーナー」等、生徒の目につきやすいようにディスプレイした。令和４年４月から令和５年２月まで毎月新しい図書を購入し、その度に生徒図書委員会による「図書だより」に掲載し紹介した。  ２.図書委員会の活性化及び主体的なで持続的な読書活動の啓発に向けて  ・週１回のカウンター当番や毎月の図書だよりの作成等を通して、図書学習情報センターの運用を生徒の主体的な取組みとして定着させた。放課後には生徒が集う場となり、新着図書のPOPを書いたり、ビブリオバトルに参加したり、生徒の主体的な読書活動を支援した。また、新着図書の紹介など図書委員による生徒への読書啓発の取組みも充実させた。  ３.授業での活用  ・１年歴史総合の初めの授業を図書学習情報センターで実施。新入生図書館オリエンテーションを兼ねて全員が借りて持ち帰り読書した。総合的な探究の時間をはじめ、現代文や英語の授業等、年間を通して図書学習情報センターを利用する機会を増やした。  ４.教育関係資料のアーカイブ化・スタジオ等からのLIVE配信  ・購入した撮影機器や動画編集機材を使用し、以下の動画のアーカイブ化を行い、校内での閲覧可能とした。第60回入学式（４月）、１学年校外学習（４月）体育祭（６月）文化祭（９月）、校外学習（10月）、校歌の動画撮影（10月）、創立60周年記念式典（11月）、学校説明会・体験授業（11月）、花リンピック（１月）  ・２月に実施したスピーチコンテストにおいて１、２年普通科クラス代表生徒24名のスピーチをスタジオから、国際文化科代表９名のスピーチを視聴覚室から生配信。その後編集しアーカイブ化した。また、文化祭舞台発表を購入した機材を使って撮影、視聴覚室へ生配信した。  ５.「校内教育資料横断検索システム」の構築  ・スタジオで電子黒板やプロジェクタを利用して撮影・編集したオンライン学習動画の作成を数学が先行して実施。センター長が自ら作成した動画は50本を超え、生徒による視聴は１万回を超えた。この取組みが他の教員へ波及した。  ６.その他の取組み（図書学習情報センターの利活用に関わって）  ・近隣の中学２年生30名に対し電子黒板を活用した英語の体験授業を当センターで実施した。  ・Chromebookを利用した授業改革に係る教職員研修を外部講師を招聘して当センターで実施した。 | | | |
| **成果の検証方法**  **と評価指標** | 1. 学校教育自己診断における生徒の授業満足度「授業・補習を通じて自分の進路にとって必要な学力を得ることができる」の肯定的回答89％ 2. 学校教育自己診断における生徒の主体的な探究的学習活動「私は探究的な学習を積極的に取り組んでいる」の肯定的回答75％ 3. 外部機関の客観的学力診断テストにおける学力（２年次２回め）B2以上35％、B3以上75％ 4. 第一希望進路実現率70％、国公立大学及び難関私立大学（関関同立・産近甲龍・関西外大・京都外大）合格者100名 5. 年間読書冊数10冊以上の生徒60％ | | | |
| **自己評価** | 1. 学校教育自己診断における生徒の授業満足度「授業・補習を通じて自分の進路にとって必要な学力を得ることができる」の肯定的回答88％。主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善について、今年度は組織的に取り組むことができたが、授業満足度は88％と高い水準を維持するに留まった。授業と学習動画を上手くかみ合わせた指導計画を立てる等、次代をリードする授業改善の研究を引き続き進める。　 （△） 2. 学校教育自己診断における生徒の主体的な探究的学習活動「私は探究的な学習を積極的に取り組んでいる」の肯定的回答80％。探究活動に係る図書の貸出やセンターの利用が増えたことが良い結果の一因と考えられる。 （○） 3. 外部機関の客観的学力診断テストにおける学力（２年次２回め）B2以上20％、B3以上45％、目標とは隔たりがある結果になった。授業改善や図書館利活用拡充の成果が主体的な自宅学習の習慣の定着に繋がらない。学習方法の改善のみならず、学習意欲の向上に寄与する具体的な取組みが必要である。 （△） 4. 第一希望進路実現率70％ （○）   国公立大学及び難関私立大学（関関同立・産近甲龍・関西外大・京都外大）合格者160名。教育産業の分析速報では昨年度より多少狭き門になったようだが、学年や教科担当者の粘り強い指導のもと十分に健闘した。 （○）   1. 年間読書冊数10冊以上の生徒12％。今年度新たな目標とした「全員各学期に１冊」は43％に留まった。図書貸出冊数は昨年度の２倍以上と顕著に増加し利用する生徒が増えた。生徒の読書状況は着実に上昇しているが、デジタル図書の利用が多く、学校図書の利用状況だけでは把握できない面もある。入学当初から教科との協働による全校的な読書啓発の仕掛けが必要である。 （△） | | | |
| **次年度に向けて** | * ２年間を振り返り、初めに設定した評価指標が高すぎた感があるが、怯むことなく高い目標を掲げて、その達成に向けた具体的な取組みを工夫し実践したい。 * 今年度当初に新設した総務部は、部内に情報課、国際課、総務課、図書学習情報センター課の４課を置いて校務分担とミッションを明確にし、上手く機能している。事業を立ち上げ、必要な資金をいただいて施設設備を整備し、それを円滑にランニングする組織やマンパワーもこの１年間で整えることができた。 * コロナ禍が続く中、高大連携や地域連携事業の取組みが困難であったが、その制限からようやく解き放たれるものと感じる。また、新たにリーディングGIGAハイスクールアドバンス校に指定され、ICTを利活用した授業改善が一層進めることができることとなった。 * 当初計画した「進路探究学習、授業実践、オンライン動画撮影、学習教材資源のアーカイブ化」に意欲的に取り組み、整備したスタジオを活用した高大連携事業、地域連携、国際交流事業等を積極的に企画・実施する。 * また、読書活動を取り入れた授業や探究的学習を全校的な取組みとして実施する。本事業が、生徒の学びの深化を実現し、生徒が主体的に学び、自らの進路を切り拓く力を育成する一助となり、他校のモデルとなるよう努める。 | | | |